

要式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第2回公民館運営審議会
開 催 日 時	平成28年11月21日(月)午後1時30分～3時30分
開 催 場 所	所沢市役所7階 研修室
出 席 者 の 氏 名	斎藤敏男、伊藤賢治、藤野邦夫、内野幸雄、越阪部芳加、 三原由紀子、本橋賢一、梁瀬正明、高柳進、浅田衛、倉持伸江
欠 席 者 の 氏 名	山本直子、鹿島正之助、中里市三、佐藤一子
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	教育長・内藤隆行、教育総務部長・美甘寿規、教育総務部次長・師岡林、 中央公民館長・内堀耕介、小手指公民館長・島崎敬一、富岡公民館長・斎 藤洋一、吾妻公民館長・比留間嘉浩、柳瀬公民館長・鈴木明彦、松井公民 館長・須田静男、新所沢公民館長・澤田孝男、三ヶ島公民館長・豊泉清喜、 山口公民館長・仲正之、新所沢東公民館長・酒井忠夫、並木公民館長・阿 部美和子、生涯学習推進センター所長・倉富恵理子
議 題	(1) 地域づくりにつながる公民館事業について 公民館事業の現況 ・参加者への講座アンケートについて ・新規事業の立ち上げ事例の紹介と今後のあり方について 公民館活動への参加 ・公民館活動へ参加するきっかけづくり (2) その他
会 議 資 料	講座等の参加者へのアンケート事例集 公民館新規主催事業一覧
担 当 部 課 名	教育総務部社会教育課 安田幸雄課長、田中和子主査、西村公輝主事 電話 04(2998)9242



<p>委員長</p>	<p>本日はお忙しい中、第2回公民館運営審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の議題は、地域づくりにつながる公民館事業についてということですが、各公民館では家庭教育や教育講座、文化、スポーツと幅広く事業を推進していただいています。私もなるべく公民館事業に参加するようにしています。毎月所沢の広報紙に掲載されている公民館の事業一覧に目を通しています。特に私はスポーツが好きで、公民館のスポーツ事業に多く参加していますが、残念ながらいつも参加者の顔ぶれが同じで、より多くの人に参加していただけたらと思っています。中々難しいことではありますが、地域づくりを推進していくうえでは、どのような事業であれば多くの方に足を運んでいただけるかということがこれから重大なことでと考えております。</p> <p>それでは議題に沿って会議を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議に佐藤委員、中里委員、山本委員より欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>それでは議事に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>それでは、ここから、議事に入りますので、委員長に議長をお願いいたします。</p> <p>本日の議題については公開で進めることになっております。</p> <p>本日の傍聴者は0人です。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 地域づくりにつながる公民館事業について</p> <p>公民館事業の現況</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、本日の議題は「地域づくりにつながる公民館事業について」ということで、次第にしたがって進めていきたいと思えます。</p> <p>「公民館事業の現況」ということで、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>5月に第1回を開催し、今年度、2回目の会議となります。</p> <p>前回の会議では、平成27年度公民館事業の報告が行われ、公民館事業に対する意見交換を行いました。昨年度からのテーマとなっている「地域づくりにつ</p>

ながる公民館事業」の中で、今回は、地域のニーズを吸い上げる方法や、新しく講座の立ち上げなどの様々な視点から、課題について協議いただければと考えています。

まず、最初に資料1をご覧ください。公民館の事業については、「社会教育法」の中で、第20条で公民館の設置目的、第22条で公民館の事業、第23条で公民館の運営方針が定められています。特に、第22条の中で、20条の目的を達成するため、1～6の事業を行うこととしており、所沢市においても社会教育法にそって公民館事業を行っています。

次に資料2～4をご覧ください。資料2「平成28年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書」をみますと、平成27年度においては、様々な運営形態ではありますが、市民参加により企画された事業が、全事業の55.4%を占めています。公民館ごとの詳細は資料3をご覧ください。

続いて、資料4をご覧ください。公民館事業に参加した住民の満足度については、公民館ごとに工夫したアンケート調査を行い、参加した住民の意見を聞きながら、講座の改善を行うとともに、館によっては、どんな講座をやってもらいたいかなどの質問事項を盛り込み、新しい事業の模索をしています。中を見ますと、例えば4ページの小手指公民館分館のアンケート用紙についてですが、「今後参加してみたい講座などありましたら、自由にご記入ください。」とあります。こういった形で、講座に参加された方から今後こういった講座の希望があるかをいくつかの公民館では調査しています。次に14ページをご覧ください。こちらは新所沢東公民館で行っているアンケートですが、「子育て講座で他にどんな内容のものがあったら良いと思いますか？」とあります。こういった形で、講座の中でのリニューアルの希望も調査しております。各館で形式は様々ですが、講座の満足度を測るとともに、ニーズを調査しています。

続きまして、資料5「平成27年度・平成28年度に新規で立ち上げた公民館主催事業」をご覧ください。ここ2年間で、新規で立ち上げた公民館主催事業は23事業あります。時代のニーズに応じたものや、地域の実情やニーズに応じたものなど事業を開始した経緯は様々ですが、各公民館で新しい試みがなされています。

今日は、その中から、地域に密着した企画である富岡公民館の講座「とみおか元気計画！お洒落と笑いの講座」と吾妻公民館の講座「吾妻教養講座 地域一受けたい授業、特別授業「久米の歴史～その生き立ちと時々のお話～」の2つの事例を公民館長である まちづくりセンター長から発表していただきたいと思います。

それでは、まず初めに、富岡公民館の斎藤センター長から事例発表をお願いします。

館長	<p>「とみおか元気計画！「お洒落」と「笑い」の講座」は、平成27年度の新規事業として、昨年9月に2日間開催いたしました。こちらは、富岡を元気にする講座を開催する必要があると考えまして、受講者が日常生活を楽しく、豊かに暮らせるようになる内容といたしました。講師は、所沢市生涯学習ボランティア人材バンクの登録者に依頼をいたしました。1回目のお洒落の講座では、色彩が人に与える印象や特性などを学ぶと共に、自分に似合う色の見つけ方を学習して、人生を楽しく過ごすことを目的として、カラーセラピーを学びました。2回目の笑い与健康の講座では、笑い療法士の先生を講師としてお招きして、笑うことは、心と体の健康につながるということで、「笑い」について楽しみながら学習しました。</p> <p>これらの講座は、所沢市内在住・在勤・在学の方を対象として、富岡まちづくりセンターだより、翔びたつひろば、館内でのチラシ配布にて、周知を行いました。講座の周知期間が短かったため、人が集まるか心配でしたが、定員40名のところ、予定数を上回る42名の申し込みがありました。</p> <p>色彩と笑いについての学習の講座は初めての試みでしたが、富岡地区の親睦、交流、活性化につながる内容で、参加者の81%の方からアンケートにて、満足との回答を得ることができました。アンケートの内容を一部紹介しますと、お洒落の講座では、「自分に似合う色がほとんど身に付けていない色で大発見でした。好きな色と似合う色は違うということが分かりました。」笑い与健康の講座では、「笑顔は百薬の長。健康にもよいことが分かった。歳を取って忘れていたものが、笑いにあったことに気付いた。」などです。参加者の皆様が、楽しく受講ができ、グループワークやユーモア溢れる内容で大変好評な講座でした。</p>
事務局	<p>続いて、吾妻公民館の比留間センター長から事例発表をお願いします。</p>
館長	<p>「吾妻教養講座 地域一受けたい授業 特別授業 久米の歴史～その生い立ちと時々のお話～」は、多種多様な内容、色々な分野を学ぶことにより、学ぶ楽しさを知り、生涯学習のきっかけになること、学習を通じて交流を図ることを目的として開催している、吾妻教養講座の特別篇です。所沢市の「紡ごう絆地域応援事業補助金」を活用し、平成27年に発行いたしました「久米の歴史」という本を教科書にし、編集に関わった元文化財保護委員の下田博之先生を中心に講座を依頼し、地域理解を深める事業として進めてまいりました。なお「紡ごう絆地域応援事業補助金」とは、地域の身近な課題の解決を図ろうとする住民の取り組みを応援するため、自治会等が意欲的に行う事業に要する経費の一部を補助金として市が交付する制度です。この講座では八国山の將軍塚や鳩峯</p>

	<p>八幡神社、久米水天宮等、吾妻地区のいろいろな歴史を物語る史跡を見学しながら行います。今年はこの様な全体を網羅した講座を行いました。次年度からは年代ごとに区切りまして、古代～近世史までのシリーズ化を考えております。</p> <p>次に、これまで定年退職後の方々を対象とした講座として、「セカンドライフカレッジ」を開催していましたが、年々参加者が少なくなってきたことを受け内容を一新し、仲間作りや地域を知ることがを目的に、吾妻、小手指、三ヶ島地区を散策する「所沢探訪」を開催しました。この講座は、参加者が一緒に歩くことでコミュニケーションを深め、地域を歩くことで地域への興味、理解を深めることを目的として開催しました。この講座には、「気楽に歩こう会」という地域団体や生涯学習推進センターのふるさと研究担当職員に講師を依頼し、事業を進めてまいりました。</p> <p>この様に多くの事業を進めていますが、特に吾妻の公民館としましては、この吾妻地区の歴史を再認識しようということで、これからも進めてまいります。</p>
事務局	<p>富岡公民館と吾妻公民館の事例を発表していただきましたが、どちらも本日のテーマである「地域づくりにつながる公民館事業」といえるような事業と考えられます。</p> <p>「公民館事業の現況」については、以上でございます。</p>
委員長	<p>ただ今、本日の議題（１）の一つ目の議題についてご説明いただきました。</p> <p>講座アンケートや事例発表など今説明された内容について、質問もしくはご意見をお願いいたします。</p>
委員長	<p>資料３の公民館事業の実施状況について、市内には多くの高齢者がいますが、半分の館が高齢者を対象とした講座の数が０となっています。こういったことでしょうか。</p>
事務局	<p>公民館の事業ですので、幅広く地域の方々全員に参加いただくことを考えています。対象を高齢者に限定した講座は少なくなっていますが、高齢者を含め幅広い方たちを対象とした一般向けの講座は多くあります。</p>
委員長	<p>４月に４回ほど吾妻公民館事業の講座に参加し、とても参考になりました。しかし、会場や貸し出し資料の関係で、参加申し込みが先着の定員制で、講座を受けたくても受けられなかった人もいました。もう少し事業を拡大していた</p>

	<p>できればと思います。</p>
委員	<p>新規事業ということでお話いただきましたが、逆に人が集まらない等で、見直しや廃止を行った事業はありますか。</p>
事務局	<p>公民館事業数の推移を見ますと横ばいではありますが、各館ごとでは上げ下げがあります。長年続いていく事業もありますし、様々な理由で年ごとに開催したりしなかったりという事業もあります。また、公民館の工事により中止するケースもあります。</p>
委員	<p>昨年度の公民館事業総数や参加者総数は前年度と比べどうなっているのか、公民館としてはこれらの推移を今後どうしていきたいのか、また、高齢化が進み参加者を増やしていくことは難しいと思われませんが、どういう方向に進んでいくのか、考えがあればお聞かせください。</p>
事務局	<p>公民館利用者は大体90万人台で横ばいに推移しています。今後、どの様にすれば地域の方々に参加していただけるかについては、本日の議題2で皆様からご意見いただければと思います。</p>
館長	<p>高齢化社会が進んでおり、一般を対象として事業を開催しても高齢者の割合が大きくなってしまいますので、富岡公民館では若い世代向けの講座を開催したいと考えています。また小さい子どもを対象にすれば、保護者も一緒に参加しますのでそういった形で新しい事業が出来ればと考えています。</p>
委員長	<p>高齢者は人数も多く、時間に余裕がある人も多いと思います。しかし、公民館事業に参加していない人が多くいると思います。そういったことも考えてもらえればと思います。</p>
部長	<p>高齢化が進んでいく中で、介護予防や引きこもり予防など、公民館の役割も増えていきます。公民館に足を運び趣味の活動に打ち込んでもらえれば介護を受ける期間が短くなったり、病院にかかることも少なくなるかと思えます。公民館として地域の特性・特色をみて、高齢化率が高ければ高齢者が気軽に立ち寄れる事業を開催することも必要だと思えます。しかし、そればかりではなく、従来の趣味を通じて多世代の交流ができる事業も大切です。そういった様々な視点からこれからの公民館事業のあり方を考えていく必要があると思っています。</p>

委員	<p>土日祝日に開催している事業も多いようですが、日曜勤務はスムーズに行えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>休日に出勤した場合は代休を取ってもらっています。平日は公民館事業に参加出来ない方も多くいますので、今後勤務形態が変わったとしても、同じ様に対応していただきたいと思います。</p>
委員	<p>先ほどお話いただいた2つの館の事業は、資料3のどこに該当するのでしょうか。また、多くの方に参加していただいたとおっしゃっていましたが、普段公民館に出入りしていない様な新しい層の獲得にはつながりましたでしょうか。また、各館でとっているアンケートはどの様に生かされているのかお聞かせください。またそれに付随してアンケートを講座の最終回だけでなく、間をとることでコミュニケーションに利用している様なケースもあるのでしょうか。また、資料2の点検評価報告書に参加者数だけでなくアンケートの結果が資源として使われているかどうか、お聞かせください。それから、資料5の新規事業の中に、まちづくりセンターと公民館が一緒になったから実現できたものがあればお聞かせください。</p>
事務局	<p>先ほど紹介のあった講座を含め、それぞれの公民館事業が資料3のどこに該当するかは、前回お配りした公民館事業報告集に記載していますが、先ほどの2館につきましては、どちらも教養の向上に該当しています。</p>
館長	<p>アンケートの関係ですが、吾妻公民館では新たな事業を進めるにあたって、講座終了時に参加者の方々にアンケートを募り、次年度の講座の参考にしています。</p> <p>また、まちづくりセンターと一緒にあったことで新たに開催した事業は吾妻公民館ではありません。</p>
館長	<p>小手指地区では小手指ジャンボリーという異世代間の交流事業において、まちづくり協議会の青少年育成部会と協力することが出来るようになり、事業の拡大ができるようになりました。</p> <p>また、小手指公民館分館で行われている人気事業の「子育てサロンぶんぶん」の終了時にアンケートを取りました。その中で「1歳児を対象とする事業が少ない。」「講座や講座後に子育て中の保護者同士が交流できる場となるような事業が少ない。」という声がありましたので、これを参考に「1歳児の子育て</p>

事務局	<p>広場(仮)」を新規事業として立ち上げ、今年度2月に開催予定です。</p> <p>アンケートの結果につきましては、所沢市で行っている事務事業評価の指標としても利用されています。また、公民館事業報告集の中にも、アンケートを行った事業については満足度の記載があります。</p>
部長	<p>教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書につきましては、大学の教授など第三者の評価委員や教育委員の評価をいただきながら作成しています。今後は公民館主催事業の項目において、アンケートの結果をある程度まとめたものを用意し、確認できれば良いと思っています。どのような形でアンケート結果をまとめ、点検評価表に取り入れていくかは今後考えるべき課題だと思っています。</p>
委員	<p>新所沢東地区では、「しんとこイーストネット」というシステムが出来ましたので、アンケートを取るというより、そこで絶えず意見を幅広く受け付けるようにしていけたらいいと思います。</p>
委員長	<p>委員の皆さんの中で、積極的に関わってらっしゃる公民館の講座や事業がありましたら、発言をお願いします。</p> <p>また、10月から11月にかけて地区文化祭が開催されたが、その感想でも良いと思います。</p>
委員	<p>私は郷土史が好きで、市報が出るとすぐに目を通し、郷土史講座に申し込みをしています。しかし、郷土史講座が吾妻、柳瀬公民館には多くありますが、他の館には少ないように感じます。所沢は中新井、新所沢に公団ができてから変わりました。昭和30年代の開発に携わった人たちがいるうちにそういう講座をやるのもいいのではないのでしょうか。そういった講演を行ってくださる方の発掘はどうなっているのでしょうか。</p>
部長	<p>教育委員会の中には、文化財保護課という課があります。そこでは、出前講座を行っており、市役所の内部にも専門的に講座を行える体制があります。公民館にそういったニーズを伝えていただければ、文化財保護課や生涯学習推進センターが窓口となり、公民館で行う講座の幅が広がっていくと思います。秋田家や柳瀬の滝の城、黄林閣などをテーマにするのもいいと思います。</p>
委員	<p>新所沢地区では11月に文化祭を行いました。新所沢公民館は立地条件が良</p>

	<p>く、登録サークルが数多くあります。そのこともあり、文化祭に参加して下さるサークルも多くあります。さらにまちづくりセンターになったこともあり、サークルの発表の場としてだけでなく、地域の方々にも作品を展示する等で参加していただいております。児童館や図書館も入って大きなお祭りになってきています。しかし、まだ地域の方々とは温度差があり、誰でも参加できると周知はしてもまだ提出していただける作品も少なかったり、足を運んでいただけなかったりという状況があります。そこで、地域の学校の先生にお話をしたところ、多くの作品が集まりました。またその作品を目当てに、保護者の方の来場も多くありました。</p> <p>公民館事業に参加する場合、利用者の方はお客の立場で参加します。しかし、一緒に事業を立ち上げる立場になると、新しいものを始めることに対しては、期待というより負担感が大きくなってしまっているように感じます。これは役員不足に起因するものだと思うのですが、現在はまちづくり協議会というものが各地域に出来てきています。新しいことを始めるから新しい人を集めるというのではなく、こういった既存の組織同士の連携を強化し、活用していくことを真剣に考えていく時期かと考えます。</p>
委員	<p>社会教育法では公民館の運営方針として営利事業を援助することは行ってはならないとなっておりますが、文化祭で民間企業が参加することはいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>社会教育法では、「もっぱら営利を目的として事業を行う」ことに対して制限を加えているのであって、金銭のやり取りを全面的に禁止しているわけではありません。そのため、文化祭においても、民間企業が参加することまでは禁止していないと考えます。</p>
部長	<p>今、事務局からも説明がありましたが、営利を目的とすることは許されません。しかし、例えば生涯学習推進センターの「星空フェスティバル」のような、地元の企業の方に、営利目的ではなく、企業の地域貢献という形で参加していただくことはあります。このように民間の企業にも地域に貢献していただくことは大切なことだと考えていますし、広めていきたいと考えています。</p>
事務局	<p>補足説明ですが、資料1の社会教育法第20条を見ていただくと、「公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とす</p>

委員	<p>る。」とあります。基本的には、ここにあげる目的に即している場合は、民間企業であっても制限することはありません。</p> <p>昨年度、山口地区の文化祭では地元の企業の方に参加してもらいました。例えば、公民館で講演会を行ったとして、講演会で講演に関連する本をその場で販売することは可能でしょうか。</p>
事務局	<p>教科書や参考書など、その事業に関連するもの、学習目的に沿っているもの場合は販売可能となります。</p>
委員長	<p>議事（１） 公民館活動への参加</p> <p>それでは、次の 議題に行きたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>2つ目の議題は、公民館活動への参加についてでございます。</p> <p>資料6をご覧ください。埼玉県の生涯学習・社会教育担当課長会議で配布されたもので、平成27年度に「生涯学習活動」について調査を行っております。その中で、「生涯学習活動」を経験してない理由としては、一番が「仕事が忙しくて時間がない」、二番に「きっかけがない」という結果になっています。一番目の「仕事が忙しくて時間がない」については、現在働いている世代で、夜間や土日の事業でないと参加できないと思われます。二番目の「きっかけがない」については、今後、団塊の世代など、日常生活が職場から地域に移る人が多くなることが予想され、地域デビュー「きっかけ」の一つとして公民館活動があげられると考えます。また、核家族化が進む中、地域・家庭・学校が一体となって子供を育てる環境をと叫ばれる中、子育てしている家庭が気軽に集まって情報交換する一つの場所として公民館があり、きっかけづくりとして赤ちゃん広場や子育て講座があげられます。このように様々な世代が公民館活動に参加し、地域の一員になるようなきっかけが今求められていると考えられます。</p> <p>続きまして、資料7をご覧ください。夏に相模原で開催された第38回全国公民館研究集会神奈川大会の第9分科会の事例として、新潟県三条市中央公民館の「きっかけの一步事業」がありましたので資料として利用させていただきました。</p> <p>所沢市とは規模が異なりますが、三条市でも高齢化が進んでおり、人口の4分の1が高齢者となっています。「高齢者実態調査」を行ったところ、その約8割が生活に充実感があると回答されている一方で、何か活動をしたいと回答</p>

	<p>された人が約5割もいるものの、実際に活動している人は3割弱でした。この活動したいという人たちは、きっかけがあれば長寿社会の重要な「担い手・支え手」になると考え、何か活動したい人のあと1歩を、背中を後押しする「きっかけの1歩事業」をスタートしました。三条市の考え方としては、突拍子もないことでもとりあえずやってみるということで行っているのですべてがうまくいっているわけではいと思いますが、この試みの主な成果として、「外出機会が増えた」や「男性の参加が増えた」や「催しがあるときのスタッフ要員として参加してくれる人が増えた」ということが上がっています。所沢市にもこのケースが当てはまるかは別として、このような試みがあったということで、紹介させていただきました。</p> <p>今後、高齢化社会を迎える中、家で引きこもっていることが運動不足や認知症などの病気になりやすいことを考えると、きっかけの一步としての公民館活動は今後大事な地域デビューの一つになると言えます。</p> <p>これからの公民館活動に新しく地域の人が参加するためにはどうしたらいいか委員の皆様にご意見いただけたらと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>今、事務局から、公民館活動への参加のきっかけづくりについて説明がありましたが、個人的意見でもかまいませんので、各委員さん一人ずつ、こんな講座だったら自分は参加する、または興味があるという意見をお願いします。倉持先生からは他市の事例などがあれば、教えていただきたく、また、斎藤先生には今現在、学校と連携できる事業などがありましたら意見をお願いします。では斎藤委員から、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>まず公民館の事業は平日の昼間が多いので、保護者中心の参加となっています。小中学生の公民館事業への参加は土日のイベントが多くなっています。現実的には、公民館の文化祭で作品の展示を行うことが出来ます。または吹奏楽やコーラスで、イベントへの参加が可能だと思います。実際、所沢中学校も、中央公民館の体育祭のお昼のイベントに吹奏楽部が参加させていただきました。また、生涯学習推進センターの催しでは科学部が参加させていただきました。このように文化関係は、要請があれば展示やイベントで公民館事業に参加することが出来ます。</p> <p>また、公民館施設の中では、ホールを利用することが多いです。吹奏楽等の発表や、高校の学校説明会を行うことがあります。こうした中で、中央公民館ではホールの運営委託を行っていますが、委託しすぎてしまうと、使い勝手が悪くなってしまふ恐れがあると思います。</p> <p>また、学生から大人までの流れで考えますと、まず小学校には公民館訪問と</p>

委員	<p>いうものがあります。授業の中で公民館はこういうものだと理解させています。次に中学校では、体育祭の誘導係や地域清掃等、ボランティアで公民館事業に参加することがあります。高校生においても、こうしてボランティアでつながっていったら良いと思っています。そして、成人になると成人のつどいでまた公民館に戻ってきます。その後も保護者になると自身の子ども絡みで公民館に訪れる機会が多々あると思います。このような流れの中で公民館に関わる場面が増えてくると良いと思います。</p> <p>最後に、所澤学校という形で、所沢中学校、所沢小学校、明峰小学校の三校が合同になって、防災について考えていこうと動いています。これは、市の防災訓練の日に学校で関わっていこうというものです。現在、地区ごとの防災訓練は大人が参加するだけになってしまいがちですが、実際に災害が起きたときに、子どもたちがどのくらい関われるかを模索しています。</p> <p>松井地区では、東中学校の生徒が毎年9月に行われる敬老会でアトラクションとして、吹奏楽の演奏をしてくれています。また、防災訓練に子どもも参加するように学校に働きかけたところ、子どもの参加者が徐々に増えてきています。今年は実際に東中学校の生徒が、救助訓練にも参加しています。子どもであっても、中学生はもう一人前に働いてくれますので、いい傾向だと思っています。またこれ以外にも各地区の祭りや盆踊りに子どもたちの好きな曲をいれることで、子どもの参加を促しています。このように子どもが参加するきっかけを作れば、スムーズに公民館事業に関わってくれると思います。</p> <p>きっかけを作るにはどうしたらいいかですが、文学や歴史等の講座では、個人の趣味がありますのでなかなか難しいと思います。きっかけは、チラシ等ではなく、直接の誘いが一番だと思います。役員さんには負担がかかってしましますが、友達や家族を誘って、一体感を作ることが大切だと思います。現在は公共施設での飲食・飲酒の規制が強くなってきていますが、少し規制を緩め、大人数で集まってお酒を飲むことでいいコミュニティが作りやすいと思います。そうして顔見知り、知り合いを増やすことが大切だと思います。また、高齢者が増えていますので、公民館と老人福祉センターが連携していくことも大切だと思います。</p>
委員	<p>向陽中学校では数年前から部活動単位で防災訓練に参加し、放水訓練やバケツリレー等を行っています。中学生は即戦力だと校長先生もおっしゃっていますので、防災の場面に限らず、地域の方から声をかけて活躍の場を作っていければいいと思っています。中学生が戦力になるとは言っても、地域で人手が足りない時に、中学生に声をかけるという発想にはなかなか繋がりがづらいと思い</p>

委員	<p>ますので、慣例になっていないところでの最初の1歩を考えていきたいと思 います。</p> <p>防災に関して、公民館は避難所にはなっていませんが、何か起きたときに必 ず助けを求められると思います。防災については市民の関心も強いと思いま すので、それに関連した講座を開催したり、親子向けなど、ターゲットを絞って 募集したりしてみると、新しい参加者が集まりやすいと思います。また、親子 をターゲットにするのであれば、チラシを回覧板で回すより、学校で配布して もらった方がいいと思いますので、そういった形での学校との連携も大切だと思 います。</p> <p>新所沢東地区でも、防災訓練に中学生が参加してくれました。今後も、継続 性を持って小中学生の参加を促してもらいたいと思います。学生に継続して取 り組んでもらうことで、成人になっても思い出に公民館が残っててもらえたら いいと思います。美原中の地域清掃活動は、継続性を持って行うことで中学 を卒業し高校、成人になっても地域の方が参加してくれていますので、そうい ったことを参考に、呼びかけていってもらいたいと思います。</p>
委員	<p>地域清掃活動について、所沢中学校で20年ほど前から春と秋の環境美化の 日には全校生徒が参加しています。特に春の環境美化の日には、全生徒に加え 保護者の方や地域の方にも参加していただいております、1000人以上の方が動 いています。こういった活動が20年も続けられている理由としましては、支 部の支部長が責任を持って、支部学活というものを学校の授業に取り入れ、年 間を通じてのボランティアの割り振りを行っているということがあります。部 活単位で地域活動に参加することは統率が元々取れているので簡単ですが、 後々は部活ではなく、地域の中で活動していくこととなりますので、地域ごと に繋がりを持って参加することは非常に大切なことだと考えています。</p> <p>防災訓練についても、本番だけを行うのではなく、事前に打ち合わせ会等 を行い、子どもたちの動きを確認するなどの必要があると思います。子どもたち は、指示が明確になっておらず、やることがわからないと遊びだしてしまうこ とが多々あります。指示が明確で、具体的にやることがわかればしっか りと働き、地域との繋がりや存在感を持たせることで参加してよかったと思 ってもらえることができ、次に繋がると思います。</p>
委員	<p>資料6についてですが、一番上には「県民サポーターアンケートより」とあ り、中には「県政サポーター数」とありますが、どちらが正しいのでしょうか。 また、このサポーターの年代をお聞かせください。また、公民館事業への参加</p>

	<p>はきっかけがないと難しいと思います。私自信も引っ越ししてきた後、近隣の方に何度もお誘いいただいたことがあり、公民館事業に参加しました。チラシを見て参加するというケースは、元々意欲的な場合しか起こりえないと思います。そのため、きっかけづくりとしては、やはり声掛けが大切だと思います。資料7、71ページ下から4行の様に活動することで、公民館、まちづくり協議会も良い方向に変わるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>資料6については、県の社会教育主幹課長会議の中で出された資料ですが、年齢については触れていませんでした。また、公民館長を30年続けている方の話の中で、きっかけづくりということでギター講座を行った話がありました。夜間に講座を行い、働いている方に参加してもらった結果、公民館活動に興味を持ってもらい、何年後にサークル活動にも参加するようになってくれました。定年退職後すぐに公民館事業に参加していくのは難しいですが、こういった経験があると地域に入っていきやすくなるという事例発表でした。何かのきっかけがあり、公民館事業に参加した経験があれば、地域に溶け込みやすくなりますので、やはりきっかけづくりは大切なことだと思います。</p>
委員長	<p>所沢市には高齢者大学というものがあります。私も昨年、第39期を卒業しましたが、心身の健康作りや楽しい仲間作りが出来るものでした。公民館でも、年1回5日間くらいでもいいのでそういった事業があると卒業してからも楽しいと思います。</p>
委員長	<p>倉持先生から、これまでの審議を踏まえてご意見をいただけますか。</p>
委員	<p>皆様のご意見の中で、多くのアイデアが出てきたと思います。私も学生と一緒に地域の公民館活動に関わる人が多いことと、市民活動に講師や支援者として関わることもあります。そうした経験と、皆様の意見を聞いて、感想のようになってしまいましたが、発言いたします。</p> <p>まずきっかけについて、口コミや声掛けなど、人に誘われるということは非常に大切だと思います。公民館活動を熱心にされている男性の方を中心に、きっかけの事例集めを行っていますが、今では熱心に活動していても、数年前までは全く地域に関心がなかったという方が多くいました。長年地域活動をしていたというより、定年退職後に地域に出てきた方が多いですが、そのきっかけは奥様に無理やり公民館に連れてこられた、引き込まれたなど、お連れ合いの力が大きいということがわかりました。また、子どもの行事をきっかけに、父親の方がのめり込んでしまうという事例も聞きます。ですので、講座や企画自</p>

	<p>体も、誰かを連れていかななくては参加できないようなものにしたたり、来ている人たちに声掛けをお願いしたりという引っ張り込みが必要だと感じました。</p> <p>また、ニーズをどうさぐりどのような内容・テーマの講座を実施するかについてですが、食べ物の講座は非常に人が集まるという事実はあると思います。以前地域住民にアンケートを取ってごみ問題の講座を行ったことがあります。ゴミ袋が有料化となるタイミングでしたし、アンケートの地域ニーズにも沿っていて、人が集まると思いましたが、全く人が集まらなかったということがあります。アンケートで希望が高い講座が、必ずしも人を呼ぶ講座となるわけではないということがよくわかりました。ニーズをどこに探るかということも大切ですし、1回目に人が集まらなかったとしても、何年かで定着するという考え方も大切だと思います。表に出ているニーズだけでなく、裏にあるニーズを引き出すためには、委員や職員の方の力が重要となると感じました。</p> <p>また、本日の課題を初めて聞いたときに、企画や活動に市民が参加するという事を言おうと思っていましたが、所沢では既にそれが進んでいました。しかし、担い手がいつも同じメンバーになってしまうという辺りがこれからの課題になると思います。これはどの地域でもある課題ですが、役割というものを割り振り、上の人がいるうちに一緒に活動し引き継いでいくということが大切だと思います。次の世代をどう育てるか考えたときに、一緒に活動して覚えさせることで、溶け込みやすいということがあります。私の母も、初めは自分の健康作りのために公共施設に通っていましたが、職員の方に体力測定の手伝いをして欲しいと頼まれ手伝っているうちに、週に何度かボランティアをするようになりました。初めは意欲的ではなかったものの、次第にやりがいを感じるようになっていってました。このように、誰かに役割を与えられることも地域の繋がりを作るきっかけの一つだと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。今、各委員から出された意見につきましては、今後、社会教育課や各公民館で再度、事業を進めていく上で参考にさせていただければと思います。</p>
	<p>議事(2)その他</p> <p>それでは、次に「その他」に行きたいと思います。事務局から説明をお願いします。</p> <p>その他でございますが、資料7の「第38回全国公民館研究集会神奈川大会」の第1日目の全体会に、内野委員長と藤野委員が代表して参加いただきましたので、代表して藤野委員から報告をお願いします。</p>
事務局	

委員	<p>今年の8月25日に全国公民館研究集会神奈川大会に、内野委員長と私の二人で参加しました。その中で始めに「お小昼のひととき」というアトラクションが行われました。お小昼というのは午後三時頃のおやつの時間のことで、それに関するお話がありました。65年前、私の住んでいる下富地区も、昔、三富の開拓が行われた所ですが、買い物に不便で、砂糖などの貸し借りが行われていました。そういうこともあり、地域の親睦はとても深く、いい関係がありましたが、現在はそういった事もなく、寂しく思います。</p> <p>また、基調講演として、「自治と分権 公民館の本質と新たな役割」と題して、東京大学大学院の牧野教授の講演がありました。最後に「公民館が果たす役割 ひとづくり・まちづくり」ということで、パネルディスカッションが行われました。文部科学省社会教育課職員からは、社会のあらゆる場において地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習等が活発に行われるように環境を整備する役割を果たしていくことが求められているとの発表がありました。</p> <p>沖縄県那覇市若狭公民館の宮城館長からは、学校区の6つの自治会、社会教育関係団体、地域住民により組織された「地域サポートわかさ」がNPO法人化され、指定管理者となって公民館を担い、様々な活動を行っている事例が発表されました。相模原市立大野南公民館館長からは、公民館振興計画、博物館や図書館、大学など他機関等との連携など、特徴ある公民館活動の事例発表が行われ、パワーポイント資料の「公民館を大事にしよう」というタイトルが印象的でした。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今までの議事全体の中で、各委員からご質問があればお願いします。</p> <p>委員から意見がなければ、事務局よりほかにありますか。</p>
事務局	<p>今回、地域づくりにつながる公民館事業についてご協議いただきましたが、今回いただいたご意見をふまえ、次回以降、今後の公民館事業のあり方について議論を進めていきたいと考えております。</p> <p>なお、次回は2月に、初めての試みなのですが、社会教育委員会議の委員との意見交換会を予定しております。社会教育委員会議は公民館運営審議会と同じく社会教育法の中に位置づけられた審議会です。現在、家庭教育の充実について検討しています。子育て講座やあかちゃん広場など、特に未就学児を抱える家庭に対する事業を行っている公民館を、子育てを支えるネットワークの重要機関として考えており、公民館の運営を審議する公民館運営審議会の方々と一度情報交換ができればと、今回合同意見交換会を開催することとなりました。</p>

<p>委員長</p> <p>事務局</p>	<p>また、社会教委員会議でまとめた家庭教育についてのまとめは、会議前に配布いたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、他になければ、これで議事は終了いたします。</p> <p>委員長さんには議事進行ありがとうございました。</p> <p>続いて、事務連絡をさせていただきます。</p> <p>入間地区公民館研究集会が、今年度は、所沢市において開催されます。平成29年2月3日(金)午後2時から松井公民館を予定しており、委員の皆様にはご都合がよろしければ、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。</p> <p>続きまして、前回、マイナンバー関係の書類提出をお願いしておりましたが、本日、ご持参いただきました委員の方はのちほど事務局へご提出をお願いします。</p> <p>以上をもちまして第2回公民館運営審議会を終了とさせていただきます。</p>
-----------------------	--